

高橋 一

第四十四代米大統領にバラク・オバマ氏が就任した。米国史上初めての黒人系大統領である。

そのオバマ氏はコロラド大学卒業後の約三年間、シカゴの黒人居住区で教会を拠点としたコミュニティ・オーガナイザーの仕事に携わった。彼の自伝「マイ・ドリーム」(邦訳はダイヤモンド社刊)でかなりの分量を割いて記されている。

八一九八三年、私はコミュニティ・オーガナイザーになろうと決意した。だがそんな仕事で生計を立てている人を知っていたわけでもなく、あまり細かいことは考えていなかった。大学のクラスメイトに、いったいそれはどんな仕事かと聞かれても、答えることすらできなかった。

コミュニティ・オーガナイザーに対する日本語の定訳はまだない。一般にはNGO(非政府組織)やNPO(非営利組織)で、コミュニティ・デベロップメント(農村開

「コミュニティ・オーガナイザー」出身のオバマ氏



たかはし・はじめ 1953年、札幌生まれ。酪農学園大・短大教員。国際基督教大卒、東京神学大学院修了。専門は神学、キリスト教NGO論研究。

発・地域開発)に従事する人を指す呼称である。ここで言うデヴェロップメント(開発)は単純な「経済開発」ではない。農村や都市の困難な状況に置かれた住民が主体となって、貧困、教育、保

ために人々を鼓舞し、状況を認識させ、住民の内発力を導き出し、時には権力側と交渉する力を結集させる役割と言えはいいだろうか。広い意味でのコミュニティの共同性(絆)の回復を実現す

肢なのだろうか。

■ □ ■

が殺到する。

日本ではこの時期、大学生の就職志望企業ランキングが発表される。誰もが知っている会社が並ぶ。米国にも同じようなランキングがある。が、決定的に違っている点がある。世界的な大企業と並んで複数のNGO・NPOが毎年必ず入る。

「オバマ大統領誕生で忘事した体験は、その後のオバマ氏の政治理念と手法、さらに生き方に大きな影響を与えているに違いない。」

NPOを志す米の若者

受け止める土壌が社会に

健康、環境などの課題に参加型手法をとおして

る仕事である。

トテンに入るからだ。日本の青年海外協力隊のよ

活動が日本社会や日本の大学生・青年たちに、職業選択肢の一つとして受けとめられるようになる

取り組み、草の根からの改革をめざす「社会開発」を意味する。「コミュニティ・オーガナイザーは地域住民の中に入り、けっ

の黒人貧民街での体験が、自己像の確立を模索していた時期のオバマ氏にとつていかに影響を与えたかがよくわかる。そ

うに、開発途上国で活動する「平和部隊」や、国内の貧しい地区の底辺校で教員体験を持つNPO

米社会にはそのような青年の内面的要請を受けとめる精神風土と社会土

とき、現代日本がかかえる政治的課題の根深さがはじめて国民的に自覚され、その課題を乗り越える道が切り拓かれていく

のではなく、抑制した役割を果たす。

のような仕事を選択したオバマ氏であるが、それは大統領に選出されるようなごく限られた人、エ

「ティーチ・フォー・アメリカ」への希望者が、花形企業のIT産業や大銀行と拮抗する。当然、

はなれないとしても、そのような青年が少なからず存在していることは事実な

マ大統領の誕生は、私たち日本人にそのような問いを投げかけているとも言えるのである。

民との信頼関係を築き、直面する問題に取り組む

リート層に属する一部の大学生が選ぶ特殊な選択

うやく三分の一程度だ。にもかかわらず、志望者

のだ。コミュニティ・オ

いを投げかけているとも言えるのである。

の政治指導者